

1. 略歴

- 1992年3月 東京大学文学部心理学専修課程卒業
1992年4月 東京大学文学部研究生（～1993年3月）
1993年4月 東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻修士課程入学
1995年3月 同修了（修士（文学）取得）
1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野博士課程進学
2000年3月 同単位取得退学
2001年4月 聖心女子大学文学部専任講師
2003年4月 聖心女子大学大学院文学研究科専任講師兼任
2007年4月 聖心女子大学文学部准教授、聖心女子大学大学院文学研究科准教授兼任
2008年9月 博士（文学）取得（東京大学大学院人文社会系研究科）
2013年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 著書(単著)

- 『歴史のなかの宗教心理学—その思想形成と布置』、岩波書店、2009年4月。
『スピリチュアリティのゆくえ（若者の気分）』、岩波書店、2011年4月。

(2) 論文

- 「喪の仕事としての歴史記述—ミシェル・ド・セルトーのフロイト理解を中心として」、小此木啓吾責任編集『フロイトと精神分析の現在』（『イマゴ』1996年2月臨時増刊、青土社）、233-261頁。
「宗教史は反復か—リクルのフロイト批判と『人間モーセと一神教』における〈進歩〉の契機」、『東京大学宗教学年報』XIII、1996年、87-105頁。
「精神分析における物語行為」、『現代思想』1997年7月号、青土社、293-315頁。
「『物語と宗教』研究序説—リクル「物語神学を目指して」を読む」、『東京大学宗教学年報』XV、1998年、61-78頁。
「集合的記憶の精神分析」、『情況』第2期第10巻第6号（特集：精神分析と社会学理論の可能性）、1999年6月、91-101頁。
「心理学的儀礼論とモダニティー儀礼・神経症・遊び」、『宗教研究』320号、1999年、75-99頁。
「リクル物語理論の射程—神話・イデオロギー・物語」、『フランス哲学思想研究』第4号、1999年、84-100頁。
「心理学的自己実現論の系譜と宗教—救済・自己実現・癒し」、『東京大学宗教学年報』XVII、2000年、57-72頁。
「現代思想と宗教心理」、島藺進・西平直編『宗教心理の探求』、東京大学出版会、2001年、291-311頁。
「宗教における暴力と平和—類型論的考察」、国際宗教研究所編『現代宗教 2001—二一世紀の宗教』、東京堂出版、2001年、178-189頁。
「癒しブームを超えて」、『国際宗教研究所ニュースレター』No. 32、2001年、15-19頁。
「仕事=作品としての生—リクルとアレントの行為理論・物語理論」、『聖心女子大学論叢』第98集、2002年、85-100頁。
「霊性からスピリチュアリティへ」、『国際宗教研究所ニュースレター』No. 38、2003年4月、14-22頁。
「宗教思想史のなかの心理学—一神教的心理学と多神教的心理学」、『東京大学宗教学年報』XX、2003年、29-41頁。
「癒しの諸相とその宗教史的意味」、『トランスパーソナル心理学／精神医学』Vol. 4, No. 1、2003年、46-52頁。
「宗教概念批判論」、『国際宗教研究所ニュースレター』No. 43、2004年7月、22-30頁。
「『宗教』のゆくえ」、鶴岡賀雄他編著『岩波講座宗教 10 宗教のゆくえ』、岩波書店、2004年、270-291頁。
「その先のイスラーム—テロ、「原理主義」抜きでイスラームを語る視点」、『国際宗教研究所ニュースレター』No. 49、2006年1月、27-37頁。
「心理学的死生観の問題構成—フロイト・ユング・フランクルの思想から」、『死生学研究』2006年春号、58-86頁。
「メディアのなかの「スピリチュアル」—江原啓之ブームとは何か」、『世界』No. 759、岩波書店、2006年12月号、242-50頁。

- 「心理学的死生観の臨界点—キューブラー＝ロスをめぐって」、『死生学研究』2006年秋号、36-61頁。
- 「日本のスピリチュアリティ言説の状況」、日本トランスパーソナル心理学・精神医学会編『スピリチュアリティの心理学』、せせらぎ出版、2007年、35-54頁。
- 「スピリチュアルとスピリチュアリティのあいだ」、『国際宗教研究所ニュースレター』No. 54、2007年4月、19-29頁。
- 「永澤論文へのコメント」(査読論文)、『心の諸問題論叢』、Vol. 3, No. 1、2007年、59-67頁。電子ジャーナル http://www.jstage.jst.go.jp/article/kokoro/3/1/59/_pdf/-char/ja/
- 「葬送と死生観」、『国際宗教研究所ニュースレター』No. 59、2008年7月、20-6頁。
- 「メディアのなかのカルスマー—江原啓之とメディア環境」、国際宗教研究所編『現代宗教2008—メディアが生み出す神々』、秋山書店、2008年、41-64頁。
- 「精神分析の人間観」、聖心女子大学キリスト教文化研究所編『新しい人間像を求めて—人間存在の実像と虚像のはざままで』、春秋社、2009年2月、51-73頁。
- 「心理療法思想と死生観—フロイトからスピリチュアル・ケアまで」、『臨床精神医学』vol. 38, No. 7、2009年、921-7頁。
- 「日英米のスピリチュアリティ—2009年度の海外調査から(1)」、『国際宗教研究所ニュースレター』No. 67、2010年7月、5-15頁。
- 「死にゆく人が目指すべき「モデル」などない—キューブラー＝ロスにおける「受容」と「正直さ」、清水哲郎・島菌進編『ケア従事者のための死生学』、ヌーヴェルヒロカワ、2010年9月、317-334頁。
- 「スピリチュアルとそのアンチ—江原番組の受容をめぐって」、石井研士編『バラエティ化する宗教』、青弓社、2010年10月、50-74頁。
- 「日英米のスピリチュアリティ—2009年度の海外調査から(2)」、『国際宗教研究所ニュースレター』No. 68、2010年10月、8-14頁。
- 「現代の輪廻転生観—輪廻する(私)の物語」、鶴岡賀雄・深澤英隆編『スピリチュアリティの宗教史【上巻】』、リトン、2010年12月、421-463頁。
- 「神谷美恵子とスピリチュアリティ」、『宗教と現代がわかる本2011』、平凡社、2011年3月、34-41頁。
- 「報告・聖心フォーラム 2011—3.11と私たち?それまでとそれから?私たちの祈り、願い、希望」、『宗教と文化』29号、2012年3月、123-168頁。
- 「スピリチュアリティのグローバル化—第三のグローバル化」、『宗教と現代がわかる本2012』、平凡社、2012年2月、172-5頁。
- “Spirituality and the Spiritual in Japan: Translation and Transformation,” *Journal of Alternative Spiritualities and New Age Studies* vol. 5, 2009-11, <http://www.open.ac.uk/Arts/jasanas/> 2012年4月
- 「訳者解説—総合的理解を目指して」、エーリッヒ・フロム『聴くということ—精神分析に関する最後のセミナー講義録』(第三文明社、2012年9月)、321-366頁。
- 「キューブラー＝ロスにおける「死の受容」—今、どう読むか?」、『老年精神医学雑誌』23巻10号(2012年10月)、1187-1193頁。
- (聖心女子大学比較文化宗教学ゼミ生との共著)「仏教ブームについて—僧侶による一般向けのイベント・取り組みに関する2012年の調査から」(聖心女子大学学術リポジトリ、2013年3月29日)、<http://id.nii.ac.jp/1045/00000046/>。

(3) 翻訳

- レナード・スィードラー「対話とは何か」、ピーター・バーガー「多元主義、不確実性、宗教間対話」、サイド・アサフ・アリ「宗教間対話の可能性と課題—ムスリムの視点から」、ピーター・K・H・リー「宗教間対話の方法—ホンコンにおける経験」、レナード・スィードラー「対話の十戒—宗教間・イデオロギー間対話のためのグラウンド・ルール」、中央学術研究所編『宗教間対話の可能性と課題』、中央学術研究所、1993年、321-342頁、343-352頁、394-9頁、400-413頁、414-9頁。
- (葛西賢太、高橋原、富沢かなと共訳) ジョアン・ラファエル＝レフ「もしもエディプスがエジプト人だったら」、『イマーゴ』1994年8月号、青土社。
- ジョン・ヒック「自分史」、ギャヴィン・ドゥコスタ「ヒックと宗教多元主義—更なる転回へ」、間瀬啓允・稲垣久和編『宗教多元主義の探求—ジョン・ヒック考』、大明堂、1995年、1-10頁、13-25頁。
- (渡辺学、葛西賢太、高橋原と共訳) F・X・チャレット『ユングとスピリチュアリズム』、第三文明社、1997年。
- Ch. マラムー「精神分析と宗教学」、B. ヴァラド「精神分析と歴史学」、P. コフマン編、佐々木孝次監訳『フロイト・ラカン事典』、弘文堂、1997年、504-510頁、575-9頁。

エーリッヒ・フロム『よりよく生きるということ』、第三文明社、2000年。

レヴィ・ミクローリン「信仰と音楽の融和を求めて—私の出会った創価学会オーケストラ」、『世界』727号、岩波書店、2004年6月、182-189頁。

ダンカン・ウィリアムズ「ハイブリッドな日本とグローバル時代における宗教」、『現代宗教2009』、秋山書店、2009年6月、98-130頁。

エーリッヒ・フロム『聴くということ—精神分析に関する最後のセミナー講義録』（第三文明社、2012年9月）。松宮克昌との共訳。

(4) 辞書項目・小論等

「フロム」「ジラーレ」、島藺進・西平直編『宗教心理の探求』、東京大学出版会、2001年、172-3頁、312-3頁。

「甘え」、本明寛監修『最新・心理学序説』、金子書房、2002年4月、166頁。

「癒しをたずねて」、『国語学』2004年1月号、4-5頁。

「セラピー」「ターミナル・ケア」「フロイト」、井上順孝編『現代宗教事典』、弘文堂、2005年、324-5頁、358-9頁、454-5頁。

「宗教対立はなぜ起こるのか」、『出版ニュース』2033号（2005年3月中旬号）、37頁。

「宗教学者・堀江宗正氏に聞く スピリチュアル・ブームの背景」（インタビュー）、『カトリック生活』、2007年5月号、7-10頁。

「超越的なものの個人化か、連帯への萌芽か—ポスト・オウムとしてのスピリチュアル」、『オルタ』、アジア太平洋資料センター、2008年8月、20-22頁。

「心理療法と宗教」「遊び」、星野英紀他編『宗教学事典』、丸善、2010年10月、180-1頁、550-1頁。

「地獄をなくした死後の世界」、『春秋』、547号（2013年4月号）、1-4頁。

(5) 書評

F. X. Charet, *Spiritualism and the Foundation of C. G. Jung's Psychology* (SUNY, 1993). 『東京大学宗教学年報』XI、1993年、223-8頁。

高橋哲哉『デリダ—脱構築』（講談社、1998年）、『フランス哲学思想研究』第4号、1999年、179-182頁。

「ラディカルな〈建築〉批判—多木浩二『生きられた家—経験と象徴』、五十嵐太郎編『READINGS:1 建築の書物／都市の書物』、INAX出版、1999年、190-1頁。

松村一男『神話学講義』（角川書店、1999年）、『宗教研究』326号、2000年、154-160頁。

河東仁『日本の夢信仰—宗教学から見た日本精神史』（玉川大学出版部、2002年）、『宗教研究』334号、2002年、199-206頁。

伊東俊太郎監修・吉澤五郎・染谷臣道編集『文明間の対話に向けて—共生の比較文明学』（世界思想社、2003年）、『宗教と文化』23号、2004年、149-159頁。

中沢新一『カイエ・ソバージュ』（全5巻）、I『人類最古の哲学』、II『熊から王へ』、III『愛と経済のロゴス』、IV『神の発明』、V『対称性人類学』（いずれも講談社刊）、『宗教研究』344号、2005年6月、127-136頁。

ゲザ・ローハイム著・アラン・ダンデス編『龍の中の燃える火—フォークロア・メルヒェン・精神分析』（新曜社、2005）、『図書新聞』2732号、2005年7月2日、5面。

島藺進『スピリチュアリティの興隆—新霊性文化とその周辺』（岩波書店、2007）、『図書新聞』2829号、2007年7月14日、5面。

小池靖著『セラピー文化の社会学—ネットワークビジネス・自己啓発・トラウマ』（勁草書房、2007）、『図書新聞』2854号、2008年1月19日、5面。

(6) 学会発表

「フロイトの宗教史構想」、日本宗教学会発表、1995年11月11日、沖繩国際大学（『宗教研究』307号（1996年3月）、248-9頁にレジュメ掲載）。

「精神分析における物語行為と倫理的自己変革」、日本宗教学会発表、1996年9月22日、國學院大学（『宗教研究』311号（1997年3月）、41-2頁にレジュメ掲載）。

「翻訳の倫理—「バベルの塔」をめぐる」、比較宗教思想研究会発表、1998年8月8日、東京大学。

「リクール物語理論の射程—神話・イデオロギー・物語」、日仏哲学会秋季シンポジウム「ポール・リクールの物語理論とその展開」基調発表、1998年9月12日、東京日仏会館。

「仕事=作品としての生—リクールとアレントの行為理論・物語理論」、日本社会学会発表、1998年11月22日、関西学院大学。

- 「マズローの自己実現論と宗教論の意義」、日本宗教学会発表、1999年9月19日、南山大学、(『日本宗教学会第58回学術大会パネル部会レジュメ集』、87-9頁。『宗教研究』323号、414-5頁にレジュメ掲載)。
- 「癒しの諸相とその宗教史的意味」、日本トランスパーソナル心理学/精神医学会発表、2001年9月8日、駒沢大学。
- 「フロイトとユングにおける社会的なもの—禁欲から欲望のケアへ」、日本宗教学会発表、2002年9月14日、大正大学(『宗教研究』335号、1028-9頁にレジュメ掲載)。
- 「心理学的現代社会論の系譜」、日本社会学会発表、2002年11月16日、大阪大学(『第75回日本社会学会大会報告要旨』、170頁にレジュメ掲載)。
- 「トランスパーソナル死生学を目指して—その一つの可能性」、日本トランスパーソナル心理学/精神医学会発表、2002年11月23日、立命館大学。
- “Construction of Religion as Culture,” American Academy of Religion, Mariot Marquis, Atlanta, USA, 2003年11月22日。
- “Discourse on Spirituality in Japan from 2000 to 2003: Intersection of psychology, religious Studies, and Media,” Deutsches Institut für Japanstudien Seminar, ドイツ・日本研究所、東京、2004年3月13日。
- 「宗教における暴力と平和」、聖心女子大学教養講座講演、聖心女子大学、2004年6月5日。
- 「精神分析の人間観」、キリスト教文化研究所研究例会発表、聖心女子大学、2004年7月15日。
- 「宗教概念とスピリチュアリティ概念の批判的考察」、日本トランスパーソナル心理学精神医学会発表、花園大学、2004年11月6日。
- “Discourses on Spirituality in Japan after 1995,” XIXth World Congress of the International Association for the History of Religions, 高輪プリンスホテル、東京、2005年3月26日。
- 「批判的心理学と心理学的代替宗教論」、日本宗教学会発表、関西大学、2005年9月10日(『宗教研究』347号、1266-7頁にレジュメ掲載)。
- 「心理学的死生観の展開」、日本宗教学会発表、東北大学、2006年9月18日(『宗教研究』351号、197-8頁にレジュメ掲載)。
- 「小此木啓吾の社会論—甘え・モラトリアム・やさしさの系譜」、日本宗教学会発表、立正大学、2007年9月16日(『宗教研究』355号、136-7頁にレジュメ掲載)。
- 「二つのスピリチュアリティとその政治的含意」、日本トランスパーソナル心理学精神医学会発表、日本大学、2007年11月11日。
- 「宗教学のなかの宗教心理学—研究の可能性をさぐる」、「宗教と社会」学会発表、南山大学、2008年6月15日。
- 「現代の輪廻転生観—輪廻する(私)の物語」、日本宗教学会発表、筑波大学、2008年9月15日(『宗教研究』359号、1312-3頁にレジュメ掲載)。
- “The Contemporary View of Reincarnation in Japan: Narratives of Reincarnating Self,” Denton Conference of the Implicit Religion, Denton Hall, Ilkley, West Yorkshire, UK, 2009年5月9日。
- 「スピリチュアリティの探究と「うつ」—継続中のインタビュー調査から」、AJJ (Anthropology of Japan in Japan) Spring Workshop, 天理大学、2010年4月25日。
- “Narrow New Age and Broad Spirituality: A Comprehensive Schema and a Comparative Analysis,” XXth World Congress of the International Association for the History of Religions, University of Toronto, 2010年8月16日。
- 「死後生の心理化—メモリアリズムの内的世界」、日本宗教学会発表、東洋大学、2010年9月4日(『宗教研究』367号、113-4頁にレジュメ掲載)。
- 「予言が当たったとき—アセンション信奉者の震災後の態度」、日本宗教学会発表、関西学院大学、2011年9月3日(『宗教研究』371号、208-9頁にレジュメ掲載)。
- “When Prophecies Come True: The Attitude of Believers in Ascension after the Earthquake in Japan,” Denton Conference of the Implicit Religion, Denton Hall, Ilkley, West Yorkshire, UK, 2012年5月11日。

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師等

立正大学非常勤講師(1998年4月~2001年3月)

東京学芸大学非常勤講師(1999年4月~9月、2000年4月~9月)

聖心女子大学非常勤講師(2000年4月~2001年3月)

滋賀県立大学非常勤講師（2002年9月）

立教大学非常勤講師（2004年4月～9月）

明治学院大学非常勤講師（2005年4月～9月）

立教大学文学部非常勤講師（2005年10月～2006年3月）

早稲田大学非常勤講師（2008年10月～2009年3月、2010年10月～2011年3月、2011年9月～2012年3月）

University of California Berkeley, Visiting Scholar（2009年8月～2010年3月、フルブライト奨学金取得）

(2) 学会

日本宗教学会、日本社会学会、日本トランスパーソナル心理学精神医学会、「宗教と社会」学会、日本生命倫理学会